

令和元年度事業報告書

社会福祉法人博安会
令和2年6月25日

1. 総括

新型コロナウイルスが猛威を振るい、世界各国がその対応に迫られるなか、人類においてはこれまでの生活様式の変革を求められ、全世界の各分野における経済活動に甚大な影響を及ぼしていることは周知のとおりであります。

国内においては、国と地方公共団体との連携によりあらゆる施策を講じ、また注意喚起をすることにより、各産業分野においても様々な対策に取り組んでいるところでありますが、介護分野を担う当法人におきましても、所轄庁の指導を基本として、いま出来る限りの対策を講じております。未だ出口がみえない感染症との戦いでありますが、入所者・利用者を守り、従事する職員を守ることに最大限注力をはらい、平常時と変わらぬ介護サービスの提供を切れ目なく実践していくことを使命とし役職員一丸となり努めているところであります。

さて、当法人の令和元年度決算につきましては、サービス活動収入前年比▲7百万円の491百万円。一方サービス活動費用前年比+1百万円の564百万円となり当期活動増減差額は▲78百万円を余儀なくされました。人材不足により、ショートステイたるみの杜がフル稼働出来ていないことが主因であります。早期の人員確保による受け入れ体制を整備し、収益体質改善を図って参ります。

介護分野における最大の課題は人材不足であります。介護保険法では、定められたサービス区分毎に配置基準を満たすことが求められておりますが、適切なサービス提供にはある程度の余力人員も必要であり、当法人においても人材確保を最優先課題と捉え、あらゆる手段を講じております。国内においては、公共職業安定所の利用を主とし、有料職業紹介所等も積極活用し人材確保に努めております。一方国外における外国人の人材確保におきましては、既に契約済みである介護奨学金留学生4名の就業開始が令和4年度3名、令和5年度1名決定していること。また、技能実習生については次年度2名受け入れを内定しており、当法人の経営課題である、たるみの杜フル稼働に向け、国内外において人材確保に努めております。

さて、当年度においても質の高い介護サービス提供のため、各種施策を実行して参りました。なかでも情報共有委員会における各部署との連携は、複合施設である当法人のスケールメリットを最大限活かすための検討の場であり、利用者の状態にあった、より良いサービスの提供に結びつけるため引き続き活発な意見交換の場としたいと考えております。

働く職員一人ひとりが、心身ともに健康であること。これが高齢者介護に携わる職業人として一番大切なことであることは言うまでもありません。そのため「職場風土の醸成」「人材育成」「働きやすい職場環境づくり」を法人運営の重点課題として、引き続き取り組んで参ります。

全役職員が常に「利用者ファースト」の意識をもち、利用者それぞれに最適な福祉サービスの提供を目指すため、当法人が定めた介護モットーである「細やかな気配りとやさしさの行き届いた介護」を基本理念に事業の円滑な運営を図って参ります。

2. 重点項目実施事項並びに細目

【特別養護老人ホームたるみ荘】

令和元年度も利用者本位のケアを目指し、利用者の希望に添えるよう様々な取り組みを実施してまいりました。入所者の状態が重度化していますが、状態に合わせた個別の外出を行い、気分転換を図って頂けるように努めてきました。また、施設内での行事を充実させる取り組みを積極的に実施いたしました。見慣れた職員とともに季節の行事を行う事により、密なコミュニケーションが図れ、重度化した入所者でも表情の変化が見て取れました。レクリエーション活動を取り入れた施設サービス計画の立案により、実践につなげていくことができるようになってまいりました。

従来のような画一的で時間に追われた介護ではなく、一人ひとりの入所者に応じた個別ケアの実践にも取り組み、対象を随時拡充させております。

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、2月末から面会を禁止しております。利用者の様子が分からない家族が不安にならないよう、電話で状況報告しています。職員も感染予防のため手洗い、うがい、消毒を徹底しております。

【短期入所生活介護】

介護者が一時的に自宅で介護することが困難になった場合や、利用者の希望があった場合に、施設に宿泊していただき、食事・排泄・入浴等日常生活上の介護サービスの提供を実施いたしました。

令和元年度においては、本館、たるみの杜を合わせた全体の利用者実人数はやや減少しています。利用期間の長い方で体調を崩して入院される方が多くいらっしゃったことや介護度の高い方が他施設へ入所されたことが理由として考えられます。利用者の介護度が重度化し、在宅介護が難しくなったため利用日数が増えた方もおられます。たるみ荘の短期入所生活介護を定着して利用していただく為、利用中に充実した時間が過ごせるようにレクリエーションの充実に更に努めていきたいと思っております。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、利用者の体調を利用前日に家族に確認することで、事前情報を共有できるようにしております。令和2年度も利用者本人・家族にとって短期入所生活介護が安心して利用していただけるサービスとなるため、今後もケアマネジャー・家族と連携を図りながら家庭での生活に沿って介護が行えるよう、サービスの充実に努めて参ります。

(ショートステイ利用状況) 【定員：本館10人 杜20人 合計30人】

	利用総日数	利用総人数	平均人数/日	利用者実人数
介護保険 (本館)	366日	3,212人	8.8人	53人
介護保険 (杜)	366日	5,803人	15.9人	57人
介護予防 (本館)	366日	50人	0.1人	7人
介護予防 (杜)	366日	258人	0.7人	7人
自己負担 (本館)	366日	94人	0.3人	13人
自己負担 (杜)	366日	251人	0.7人	23人
合計		9,668人	26.5人	160人

【たるみ荘デイサービスセンター】

利用者が住み慣れた土地で自立した生活を続けるために、自宅と地域をつなぐデイサービスの役割として利用者のADL (食事・排泄・入浴など) やIADL (食事の準備・洗濯・家事) の状況を把握しました。また、ご家族の思いを聞き連携を図りながら、日常生活における生活機能の維持、友人との交流、充実した時間が過ごせるよ

うに季節の行事に取り組みました。利用者一人ひとりが参加し楽しんでいただけるレクリエーションを提供し、楽しみを持ったその人らしい生活ができるようサポートしました。

(デイサービス利用状況) 【定員：平日 合計40人 土曜日 合計15人】

		利用総日数	利用総人数	平均人数/日	利用者実人数
介護保険	平日	244日	5,454人	22.3人	49人
	土曜日	48日	522人	10.8人	
介護予防	平日	244日	1,606人	6.58人	24人
	土曜日	36日	62人	1.72人	
自立	平日	195日	747人	3.83人	36人
合計	平日		7,807人	32.7人	109人
	土曜日		584人	12.5人	

春	<ul style="list-style-type: none"> ・プラパンのキーホルダー作り ・歌って体操 ・カレンダー作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員がプラパンに絵柄を描き、利用者に色を選んでもらいオリジナリティ溢れるキーホルダーが出来ました。また自分で名前も書いてもらい、鞆につけ喜ばれていました。 ・皆さんが知っている曲に合わせ、ゆっくりと体操し「こんな体操なら家でも出来る」との声がありました。 ・月初めにカレンダーの塗り絵を作成し、利用日や休日を分かりやすく丸付けしました。
夏	<ul style="list-style-type: none"> ・そうめん流し ・かき氷 ・風鈴作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の風物詩として職員が竹を切って作った手作りのそうめん流しを行いました。普段食事量が少ない方でも笑顔でよく箸が進んでいました。 ・利用者に好みのシロップを選んでもらい、小豆やみかんの缶詰でトッピングを楽しまれていました。 ・紙コップに塗り絵を施したカットイラストを貼って頂き、紐に鈴をつけ通しました。皆さん「家のどこに飾ろうか」と話が盛り上がっていました。
秋	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーバリウムの置物作り ・お月見の壁掛け作り ・みんなで歌いましょう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライフラワーを使い、皆さんに好きなお花を選んで頂き、瓶に詰めて洗濯のりを入れ、置物を作りました。 ・色紙サイズの壁掛けに、職員が紙粘土で作ったウサギを置き、利用者に月をちぎり絵で貼って頂きました。 ・歌集を用意し、利用者皆で歌いました。途中でリクエストを聞きながら、職員がギターで伴奏し歌声を披露してくれました。

冬	<ul style="list-style-type: none"> ・御守り作り ・獅子舞い ・豆まき 	<ul style="list-style-type: none"> ・厚紙に布をつけ「長寿」「健康」などを書いたシールを貼り、叶結びで鞆に付けられるようにしました。 ・毎年恒例の行事になり利用者の無病息災を祈って一人ひとりの頭を噛んで回りました。夫婦獅子の喧嘩が始まると笑顔で応援される方がたくさんいました。 ・鬼に扮した職員に「鬼は外、福は内」のかけ声と共に新聞紙を丸めた豆を投げ、厄や災難をお祓いされていました。
---	---	--

【たるみ荘老人介護支援センター】

令和元年度たるみ荘老人介護支援センター運営事業実績については、居宅介護支援事業所としての相談件数は年間相談延べ人数3,949人でした。

また、丸亀市地域包括支援センターランチとしての相談延べ人数は142人でした。その内、総合相談として家族・本人は延べ82人、その他は延べ29人、さらにそれ以外の関係機関からの相談は延べ31人でした。

今年度も介護教室を開催し、地域で介護をされている方、また介護に関心のある方に参加して頂きました。交流会も開催し、情報の交換をしました。さらに定期的に丸亀市地域包括支援センターとの連絡会に参加し、連携に努めました。

虐待については引き続きの状況把握訪問を継続し、丸亀市地域包括支援センターと連携をとりながら対応しました。

高齢者福祉制度の申請は延べ58人でした。要介護状態の方については医療との連携が更に重要になってきました。さらに、認知症の独居高齢者も増加傾向であり、それぞれの方の状況に合わせた対応、支援を行いました。その際には常に関係者との連携を心がけました。

【グループホームなごみ】

入居者が住み慣れた地域で、家庭的な雰囲気の中で、助け合ってなごやかな毎日が過ごせるよう努めました。「入居者第一」に、「共に・一緒に」そして「入居者を待つ」ことを指針として、入居者と、家事全般・おやつ作り・食事作りを行いながら、何より安心して自分らしく生活が出来るよう個別ケアに取り組みました。その中で、ご家族・地域住民の方などのたくさんの協力を得る事ができ、今年度も無事に「家族会」（年2回・お茶会&遠足）・「運営推進会議」（年6回・偶数月第3木曜）・「地域交流会」（年1回・カレー作り）を開催することが出来ました。相互の情報交換等でより一層親睦を深める場として有効な機会となりました。垂水小学校への「アルミ缶運び」は業者の都合により今年度で終了となりましたが、来年度から垂水神社手前の「お地蔵さん掃除」を新たに始める予定にしています。地域の中で根付くグループホームでいられるように「お地蔵さん掃除」を定着させていきたいと思ひます。

そして、職員間では日常のケアの振り返りと共に、質を高めるためのグループホーム内研修を定期的（月1回）に実施することが出来ました。

【ケアハウス垂水】

身の自立はできていても独立した生活を営むには不安がある方や、介護老人福祉施設が利用できない高齢者が、安心して自立した生活を送れるようなサービス提供に努めてまいりました。また、昨年同様、軽作業を中心としたレクリエーション等への取り組みを強化し、入居者一人ひとりが安心した生活が継続できるよう、日常生活の支援に努めてまいりましたが、特別養護老人ホームへの入所条件が厳しくなっている

昨今では、ケアハウスでの生活に支援や介助を要する入居者が増加傾向にあるのが現状です。その人に合った介護保険サービスの提供のために介護支援専門員や家族の方々と連携をはかり、生活機能の維持と向上に努めています。

今後の課題としてケアハウスでの生活の維持が難しくなってきた方への対応とともに安心して次のステップへ繋げられるような道作りをしっかりと行っていきたいです。

また、丸亀市の委託を受け、概ね65歳以上で介護保険の対象とならない独り暮らしの高齢者や虚弱な高齢者等で、一時的にサービスが必要な人を対象とした在宅福祉サービス（ショートステイ事業）の提供については、市からの依頼がなかったために提供にはいたりませんでした。

【香川おもいやりネットワーク】

今年度について支援を実施するための体制は整っているが、支援の対象者がいなかったため提供にはいたりなかった。

【各種委員会】

○ケアカンファレンス検討委員会

ケアプラン作成の際には、的確なアセスメントを行い、利用者の状態把握を行いました。他職種、本人や家族の参加、または家族の意向を伺った上でケアカンファレンスを開催し、本人や家族の意向を踏まえて、ケアサービス内容の検討を行いました。職種連携により、より安全で快適な生活が送れる事を前提として立案、実施いたしました。健康状態等の変化時には早急な対応を行い、ケアプランの変更を行って状態悪化防止に努めました。また、終末期の方へのケアプランの見直しを頻回に行い状態に合わせたプラン変更を行いました。

令和元年度は各事業の利用者の状態が少しずつ重度化していることを踏まえてケアプランを作成しました。

- ・開催回数・・・特別養護老人ホームたるみ荘（124回）
短期入所生活介護（75回）
グループホームなごみ（72回）
ケアハウス垂水（54回）

○レクリエーション委員会

定期的な年間の行事については、地域の皆さまの協力のもと実施することができました。各部署のレクリエーションについては利用者の体調面などを考慮して実施しました。利用者に可能な範囲で参加していただき、利用者、面会のご家族からも好評でした。また、個々の趣味や残存能力を生かし、音楽療法やカラオケ大会など利用者と職員がともに楽しむ施設内行事を充実させる取り組みを行いました。さらに定期的な行事以外にも、そうめん流しやかき氷パーティー等の季節感を取り入れたイベントを実施し、いつもと違った雰囲気味わっていただけるよう計画、実施いたしました。

令和元年度は気候の穏やかな時期に部署ごとにドライブに出掛けて気分転換を図りました。しかし、年度終わりの3月は新型コロナウイルスの影響により行事を中止する措置を取りました。

『法人全体』

- ・パンの移動販売・・・・・・・・・・12回（毎月1回）【3月は職員が販売代行】
- ・絵手紙教室・・・・・・・・・・11回（毎月1回）【3月は中止】
- ・夏祭り実行委員会・・・・・・・・・・6回
- ・敬老会実行委員会・・・・・・・・・・4回
- ・クリスマス会実行委員会・・・・・・・・4回

- ・お花見茶会、七夕茶会、お月見茶会
- ・その他の行事例（散歩、そうめん流し、かき氷パーティー、運動会、法要、垂水神社秋祭り【獅子舞、神輿、奴】、初詣、和菓子バイキング、節分、雛祭り等）

『特別養護老人ホームたるみ荘』

- ・誕生会
- ・音楽療法
- ・喫茶
- ・ドライブ
- ・クラブ活動（散歩、体操、ボール遊び、塗り絵、風船バレー、輪投げ、カラオケ、しりとり、神経衰弱、釣り）

『短期入所生活介護』

- ・誕生会
- ・喫茶
- ・大正琴交流
- ・ドライブ
- ・クラブ活動（外気浴、水彩画、歌カルタ、パズル、卓球、風船バレー、散歩、七夕飾り作り、脳トレ、カルタ、しりとり、計算、カラオケ、朗読、塗り絵、ペットボトルボーリング、ことわざ、四字熟語、魚釣り）

『グループホームなごみ』

- ・誕生会
- ・菊花展見学
- ・花の日交流
- ・菖蒲園見学
- ・地域交流会
- ・家族会
- ・ドライブ
- ・喫茶

『ケアハウス垂水』

- ・誕生会
- ・忘年会
- ・花見食事会
- ・ドライブ

○介護員会議

利用者が安全に安心して生活することができるように細部にわたって介護業務や施設整備の見直しを図ると共に、たるみ荘として統一したサービスを提供できるように介護職員間での情報共有に努めました。その中でも、特別養護老人ホームではそれぞれの利用者個々に支援したいと言う介護現場の意見により、介護職員全体で開催する部署の介護員会議の他に、各フロアでフロア会議を開催し、積極的に利用者情報の共有の連携を図りました。

令和元年度は利用者一人ひとりの状態に合わせた介護を実施するために担当職員からの申し送りをより詳細に行いました。

- ・開催回数・・・12回（各部署で毎月1回）

○衛生委員会

よりよい労働環境の改善のために、産業医参加のもと様々な事例を検討したうえで、職員の業務環境の改善や健康管理指導を施設全体で実施いたしました。

令和元年度は長時間労働対策、働きがいのある職場づくり等の職場環境改善を積極的に検討しました。

- ・開催回数・・・12回（毎月1回）

○認知症カフェ委員会

「にじいろカフェたるみ」（月1回第2木曜）の運営に関する事項について、参加者に充実した時間を過ごしていただけるように検討を重ねました。カフェ開催後に毎回反省会を実施し、改善に努めました。

令和元年度はコアメンバーを中心としてスタッフの対応や学生ボランティアの募集について検討しました。

- ・開催回数・・・2回【ただし反省会は11回】（3月の反省会は中止）

○褥瘡対策委員会

利用者の褥瘡発生予防に努め、発生時における苦痛の緩和と早期治療及びケア提供を適切に行いました。さらに褥瘡発生予防に対する知識の習得、施設方針の徹底、情報伝達等を目的として研修を定期的実施し、職員の教育に努めました。

令和元年度は褥瘡発生防止に関する指針の見直しを行いました。また、各部署が予防に努めているため重篤な褥瘡は発生しませんでした。

- ・開催回数・・・2回

○感染症対策委員会

施設内において感染症の予防、蔓延防止のためにチームケアを行う上で、各職種がその専門性に基づいて適切な役割を果たすための対策を検討いたしました。また、介護に携わるすべての従業員に対して、感染症対策の基礎知識の周知徹底を図ると共に指針に基づいた衛生管理と衛生的なケアの励行を図り職員教育を行うため研修を定期的実施しました。

令和元年度は感染症・食中毒の予防、蔓延防止に関する指針の見直しを行いました。また、食中毒やインフルエンザ等の感染症について研修を実施しました。さらに新型コロナウイルスに対する法人としての対策を検討しました。

- ・開催回数・・・6回（3月は新型コロナウイルス対策を検討）

『新型コロナウイルス対策』

厚生労働省より示された介護事業所等における新型コロナウイルス感染防止対策を実施いたしました。

- ・職員、利用者のみならず委託業者等も含めたマスクの着用、手洗いやアルコール消毒を徹底しました。特に手すりやドアノブ、スイッチ等はこまめに消毒しました。また、定期的（1～2時間ごとに5～10分間）に換気をしました。
- ・法人の全ての職員が各自出勤前に体温を計測し、体調管理を徹底しました。
- ・行政職員やヘルパーにも業務前に体温の計測と手指消毒、マスク着用を義務付けました。
- ・利用者の送迎前に本人、家族又は職員が本人の体温を計測し、発熱等の症状がある場合は利用を中止しました。
- ・緊急やむを得ない場合を除き面会を中止しました。事情により面会をする場合は体温の計測と手指消毒、マスク着用を義務付けました。

- ・委託業者等からの物品の受け渡し等は、玄関等施設の限られた場所で行いました。施設内に立ち入る場合は体温の計測と手指消毒、マスク着用を義務付けました。
- ・職員について職場はもとより、職場外でも三密（密閉、密集、密接）を防ぐため、イベント等への参加や県外への移動を制限しました。

○身体拘束廃止委員会

身体拘束の廃止のために、各職員の専門性に基づくアプローチから、チームケアを行うことを基本とし、それぞれの果たすべき役割について確認しました。さらに、職員に対して身体拘束廃止と人権を尊重したケアの実施を目的とした職員教育を行うため研修を定期的に実施しました。

令和元年度は身体拘束適正化に関する指針の見直しを行いました。また、法人全体で該当者はいませんでした。さらに、研修では拘束用具を使わないグレーゾーンの拘束（精神薬、職員の言葉かけ等）について検討しました。

- ・開催回数・・・4回

○情報共有委員会

利用者の状態に合わせた事業所を利用していただけるように毎月各事業所の現状を報告し合い、法人全体での情報の共有に努めました。また、法人全体での毎月の申込者の共有や、入院者の状態共有も行いました。

令和元年度は他法人や医療機関等とも十分な連携を図り、可能な限り利用者や家族の意向に沿えるよう尽力しました。

- ・開催回数・・・12回（毎月1回）

○ひやりはっと検討委員会

各事業の現場において発生した介護事故や、介護を行う上で、ひやりとした事、はっとした事を事故報告書兼ひやりはっと報告書に記入し、施設長の決裁を行いました。その後、提出された報告書をもとに具体的な事故の検証、今後の再発防止策について毎月開催される委員会で部署の垣根を超えて検討をしました。

令和元年度は事故発生防止のための指針と事故発生防止マニュアルの見直しを行いました。また、事故の検証や再発防止策をもとにして業務改善に努めました。

- ・開催回数・・・12回（毎月1回）

○機関誌委員会

年間の行事や各部署の入居者や利用者の作品集、入居者の日々の生活状況などを見て読んで楽しんでもらえるように構成についての検討を重ね、人と人とのつながりを大切にする施設機関誌を発行しました。

- ・開催回数・・・4回
- ・発行・・・2回

○給食委員会

管理栄養士を中心として各施設の行事食について検討するとともに、食品衛生等の注意事項について確認を行いました。また、各施設の利用者ごとの嗜好や摂食状況について忌憚のない意見を報告し合い、献立作成に反映しました。さらに、地産地消メニューの提案や季節感を演出するための工夫を行い、食事の充実を図りました。

- ・開催回数・・・12回（毎月1回）

○研修委員会

施設内研修については、技術の習得や知識の向上を目指して施設内外を問わず講師を依頼し、研修の実施のための調整を行いました。介護の専門的知識に関するものから、AEDの使い方、感染症対策や褥瘡予防に関する事まで様々な研修を行いました。また、施設外研修で習得した高齢者福祉に携わる専門職としての知識を他の職員へフィードバックするための研修を実施しました。

- ・開催回数・・・3回

『職員研修実績』

	参加（開催）総回数	参加総人数
施設外研修	68回	96人
施設内研修	13回	438人

※新型コロナウイルスの影響により3月は施設内外の研修は中止。

○安全委員会

喀痰吸引の実施状況について確認しました。令和元年度は常に吸引が必要な利用者はいませんでした。急遽吸引が必要な場面は全て日中の時間帯だったため看護師が対応しました。ただし、喀痰吸引等資格保持者に対しては指導看護師が実技研修を毎月開催し、いつでも適切に実施できるように準備しています。また、喀痰吸引等の資格を取るため、嘱託医の指示及び指導看護師の指導の下、対象職員が実地研修を実施しました

- ・開催回数・・・12回（毎月1回）

○災害対策委員会

防火訓練を2回（昼間、夜間想定）実施し、香川県下一斉に実施したシェイクアウトにも参加しました。また、非常時に備え購入した発電機の使用訓練も行いました。

令和元年度にはBCP策定のための外部研修に参加しました。

- ・開催回数・・・6回

【交流事業】

介護老人福祉施設として、地域交流、ボランティア交流を図り、施設機能の開放によって地域の福祉課題の改善を積極的に進め、地域住民との連携を深めました。

令和元年度もボランティア団体の方々や地域の方々、さらにこども園や小・中学校の子供たちに施設行事に協力してもらいました。

交流団体	110団体
交流者数	378人

【実習生の受け入れ】

介護知識、介護技術の習得を目的とした実習や高等学校（福祉学科）、介護福祉専門学校、福祉系大学等の技術研修は入所者の日常生活や職員の日常業務に支障のない範囲で受け入れを継続しました。また、社会福祉協議会主催による中学生、高校生向けの「福祉・介護の仕事」職業体験の受け入れも行い、施設ではどのような仕事、介護を行っているのかということを知ってもらう機会を作りました。外国人留学生を4名受け入れ、日常生活の中で言葉、介護知識、専門用語、介護技術を身に付けていけるように努めました。